

清らかな水面は人々の心を和ませます。

私の近くには、道頓堀川があります。幅 30～50m、深さ 3.5m、長さ 2.7 km です。ボラが多く上流では鯉も泳いでいます。

日本橋から湊町までは、遊歩道が設置されています。けれど殆ど人影は見えません。船が通る時や、夏には悪臭がします。汚く濁っているのです。時々、水陸両用観光バスも通ります。

過って「真珠貝で道頓堀を浄化する」と、金を集めた人が経営しているようです。真珠貝投入も、観光船も市、府の許認可が必要です。

橋下知事はPOLY-GLUの実験を見て「こういう技術が大阪に有るなら道頓堀川を奇麗にしたい」とTVの前で言いました。その横には川の浄化責任者、林農水部長が居ました。

しかし、市・府は一度も実験さえしようとしません。「浄化も出来て、真珠も出来る」との、甘言を採用して川は濁り放題、そこに張本人の観光船が走っている。既得権、政治との癒着は濁りきった道頓堀川を視ている様です。

その後、中国世界遺産「獅子林公園」の大きな池を浄化しました。



施工前



施工後

1日に3万人の観光客が来るので、夜間に浄水工事を行い、朝には機材も片付けて観光客の来園を待ちました。

遠くの方から「雀の大群」の様な騒がしい声が近付いてきます。それが、池の傍まで来ると急に静まりかえるのです。

澄みきった池の底までじっと覗き込んでいる人、様々な色の鯉をカメラで追っている人、カップルは記念写真を撮っています。何時も騒々しい中国人が（ごめんなさい）、とても静かで品のいい観光客に変わったのです。

「清い水は人の心までも変える。」その時、私は強く感じました。

常時、獅子林の池を奇麗にするために、私は年間 80 万円を提示しました。夜になり、蘇州市環境局長に招待されました。其処には奥方と息子さんが居り、「蘇州市の環境予算は 10 億円も無い。(現在は数千億円規模だそうです) 妻を社長に環境事業の会社を創る、POLY-GLU を任せて貰いたい。」と、申し入れられました。

「濁った話」に関わる気は無いので、獅子林公園はそれで終りになりました。あれから 10 年、今では POLY-GLU の技術は、底部の浮泥や油分まで、良質の砂は残したまま除去します。勿論、生息する魚介類に害は及びません。

道頓堀も、2 年有れば清い川に出来るのです。「上流から汚い水が流れ込む」と、市・府の似非水質専門家は主張するでしょう。

「底部の浮泥を除去すれば、砂地に光線も入り、微生物が棲み込み、大川の水質なら、充分自然浄化が出来る」事は高校生でも解ります。

「自殺者・若者たちの安易な犯罪の増加、国民の苦しさを理解できない国内政治」、中国・米国の政治経済の混迷。

すべて、奇麗な水で洗い流したいですね。

何処までも前を見て頑張ります。

10、Nov、2020 小田 兼利